

国立がん研究センター

体にやさしい治療を進化させ 「がんに負けない国へ。」



国立がん研究センター
中央病院
内視鏡センター長
MIRAIプロジェクト代表
斎藤 豊 先生

1962年の開設以来、日本のがん対策を牽引し、世界のがん研究・医療をリードし続けている国立がん研究センター。同センター中央病院の内視鏡センター長であり、高度な低侵襲治療を開発する「MIRAIプロジェクト」を率いる斎藤豊先生に話を聞いた。

垣根を超えた連携で
がん治療は進化する

食べたり、笑ったり、話したり……がん患者さんが当たり前の日常を過ごせるよう、低侵襲治療（主に内視鏡やカテーテルを使った体に負担の少ない治療）を進化させたい。国立がん研究センターで取り組む「MIRAIプロジェクト」の根底には、そんな思いがある。

「MIRAIプロジェクトは、AIやロボットなどの先進技術を駆使して、患者さんの負担を最小化する『未来の低侵襲治療』を実現すべく、2020年に始まったプロジェクトです。診療科や専門の垣根を超えて、病院

一丸となって、新しい治療法や機器の開発を進めていきます」
同プロジェクト代表を務

める国立がん研究センター中央病院の斎藤豊先生はこう話す。

具体的な挑戦の一つが、世界

トップレベルの内視鏡と、CTなどの画像を見ながら処置する「IVR（画像下治療）」が連携した、新たな治療システムの開発だ。本来は別々の診療科で行われていた専門技術を、同じ空間で、かつリアルタイムに連携させることで治療の可能性を広げている。さらには国立がん研究センターで開発されたESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）をより一層安全に行うためのAIの開発や、内視鏡による全層切除・縫合の開発も行い、さらなる低侵襲治療を推進している。

できる限り高度な低侵襲治療を多くの人に届けるために、医師や看護師、臨床工学技士といった多様なメディカルスタッフが、現場の知見を踏まえて医療や機器開発に力を尽くしている。

「垣根を超えた連携によって、治療は確実に進化しています」

寄付が新たな治療を
一日も早く実現する

しかし研究開発や新しい治療法の保険適用には、長い時間と膨大な資金を要する。「残念ながら公的な研究費が限られている現状において、寄付は、新たな治療法や機器を一日も早く、より多くの人に届ける強い推進力になります」と斎藤先生は力を込める。

「寄付に込めた尊い志は次世代の医療を生み出し、まだ見ぬ患者さんを救う力になります。託された想いを形にする責任と覚悟を持って、このプロジェクトを進めています」。一人ひとりの寄付が、がん医療の新しい未来を引き寄せる。

お問い合わせ



国立がん研究センター基金
The National Cancer Center Foundation

国立研究開発法人
国立がん研究センター

☎（築地キャンパス）：
03-3547-5333

☎（柏キャンパス）：
04-7133-1111（内線91460）

受付：9時～16時（土日祝・年末年始除く）
メール：nccifu@ncc.go.jp



MIRAIプロジェクトの詳細はこちら
<https://mirai.ncc.go.jp/>



寄付係

